

令和6年5月1日

市政記者 各位

令和6年度「ふくおかしの家計簿」の発行について

この度、本市の令和6年度予算や財政状況についてわかりやすくまとめた、市民向けパンフレット「ふくおかしの家計簿」を昨年引き続き作成しましたのでお知らせいたします。

記

1 掲載内容

- (1) 令和6年度予算の概要
- (2) 福岡市の財政状況
- (3) 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた取組み

2 配布・閲覧時期

令和6年5月1日から配布・閲覧

3 配布・閲覧場所

配布・閲覧：市役所1階情報プラザ、各区（各出張所）情報コーナー

閲覧のみ：情報公開室、総合図書館、議会図書室、市民福祉プラザ等

※本市ホームページにも掲載します。

URL：<https://www.city.fukuoka.lg.jp/zaisei/zaisei/shisei/kakeibo.html>

【問い合わせ】

財政局財政部財政調整課長 中村、中島
電話：711-4165（内線1510）

令和6年度



ふくおかしの 家計簿

目次

予算とは？何に使っているの？

- 予算って何？令和6年度の予算は？……………01
- 収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？……………01~02
- 市民一人あたりにすると？……………03
- 予算を「家計」に例えると？……………04
- どのような事業に使うの？……………05~10

福岡市の財政状況はどんなの？

- 収入や支出はどうなってるの？……………11
- 新たにいくら借金するの？……………12
- 借金はいくらあるの？……………12
- なぜ借金をするの？……………13
- 借金を減らしているけど、施設の更新(投資)はしないの？…13
- 貯金はいくらあるの？……………14
- 福岡市の財政状況のまとめ……………14

福岡市の財政をどうやりくりしていくの？

- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた取組みの方向性は？……………15
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた令和6年度における取組みは？…16

**福岡市の
令和6年度予算
財政状況
将来にわたり持続可能な財政
運営に向けた取組み
を紹介します！**

1 予算とは？ 何に使っているの？

【この冊子で使われている数値は、各項目で四捨五入していることがあるため、合計などが一致しない場合があります。】

●予算って何？

福岡市に1年間に入ってくる収入を見積もり、その使い道を決めるのが予算です。つまり、みなさんが収めた税金などが、どのような事業にどれくらい使われるのかを示したものです。福岡市の予算は、どの収入がどこに使われているか、収入と支出の関係をはっきりさせるため、3つの会計に分かれています。

●令和6年度の予算は？ ()は前年度

全会計 2兆1,464億円 前年度比 3.0%増
(2兆844億円)

一般会計 1兆825億円 前年度比 3.1%増
(1兆498億円)

福祉や教育、道路や公園の整備など行政の基本的な事業を行う会計(予算の中心)です。

特別会計 7,218億円 前年度比 3.0%減
(7,007億円)

使用料など特定の収入で、特定の事業を行う場合に設ける会計です。福岡市には現在12会計(国民健康保険事業、介護保険事業など)あります。

企業会計 3,421億円 前年度比 2.4%増
(3,340億円)

民間企業と同じように、事業収益で運営している会計です。福岡市には現在6会計(モーターボート、集落排水、下水道、水道、工業用水、地下鉄)があります。

●収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？ ()は前年度

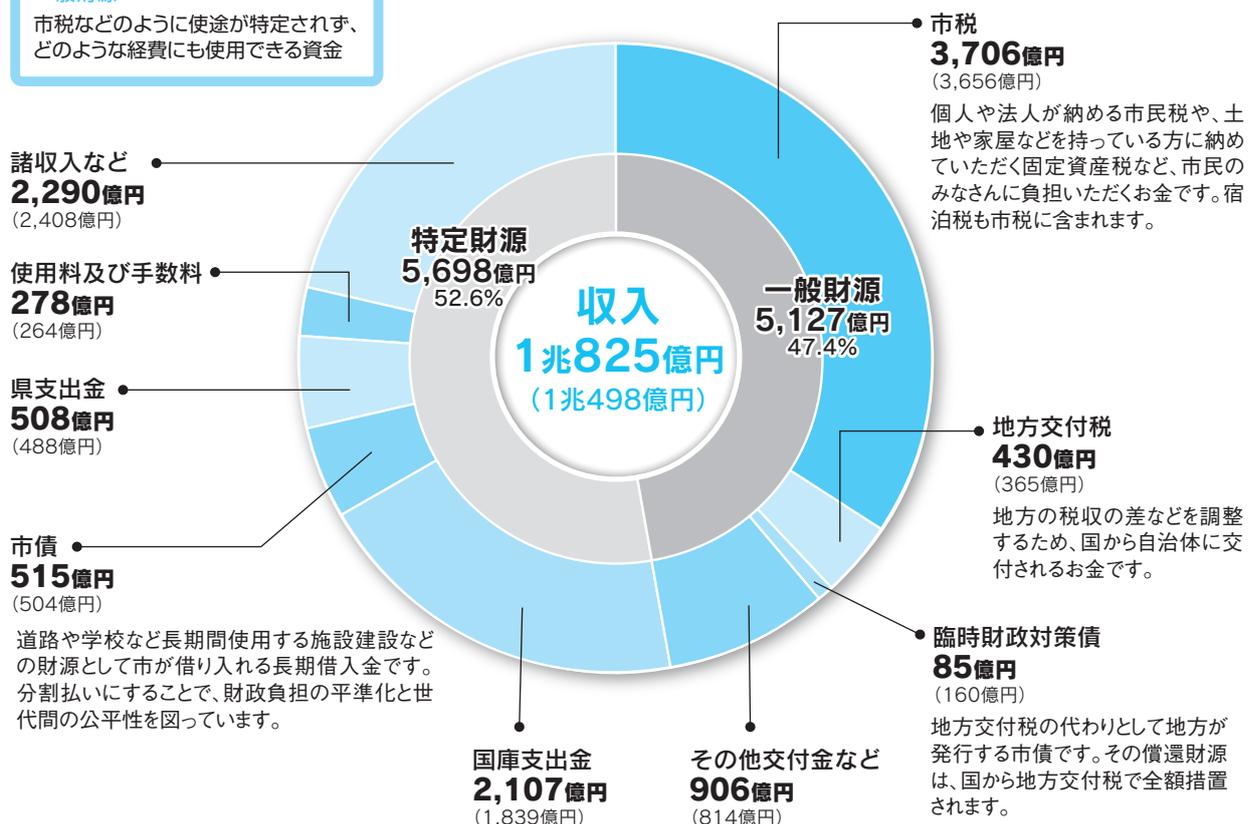
<一般会計の収入>

収入には、市税のほか国や県から交付されるお金や借入金などがあります。

用語の解説

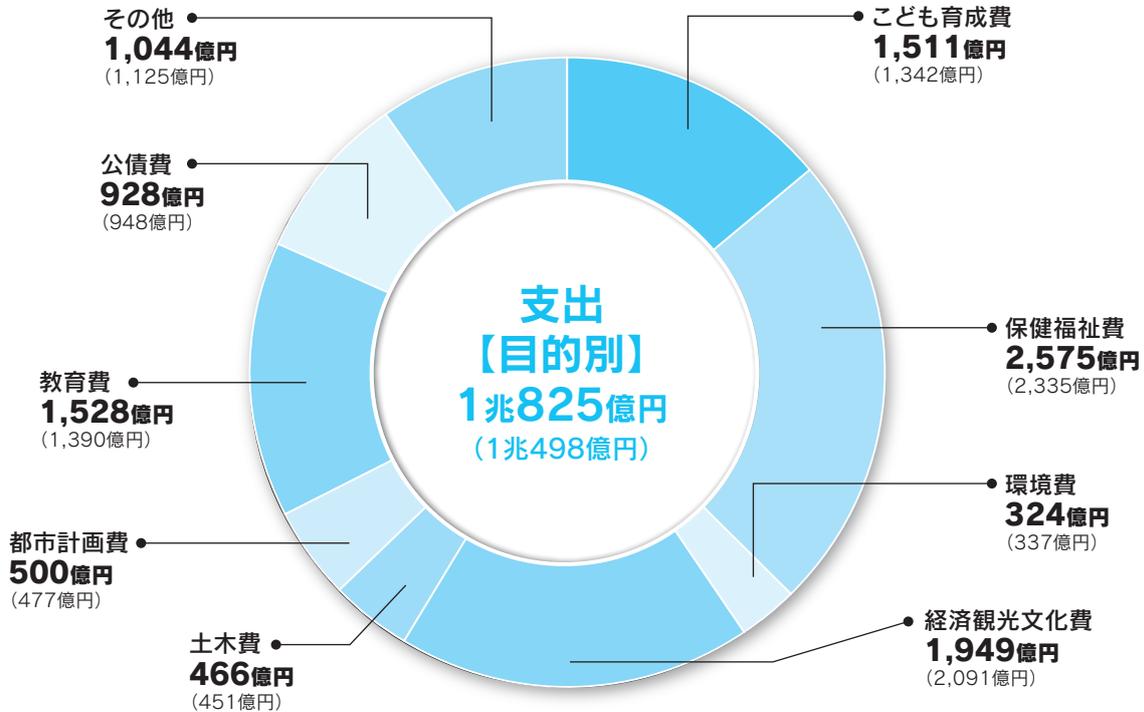
一般財源

市税などのように用途が特定されず、どのような経費にも使用できる資金



<一般会計の支出>

【目的別】 予算では、目的ごとにどれだけ使うのかを定めています。
目的別の支出の内訳を見ると、子育てや教育、保健・医療・福祉などにかかる予算が全体の52%を占めています。



【性質別】 予算は目的別だけでなく、人件費や物件費など性質による分類からも、どれだけ使うのかが見ることができます。

用語の解説

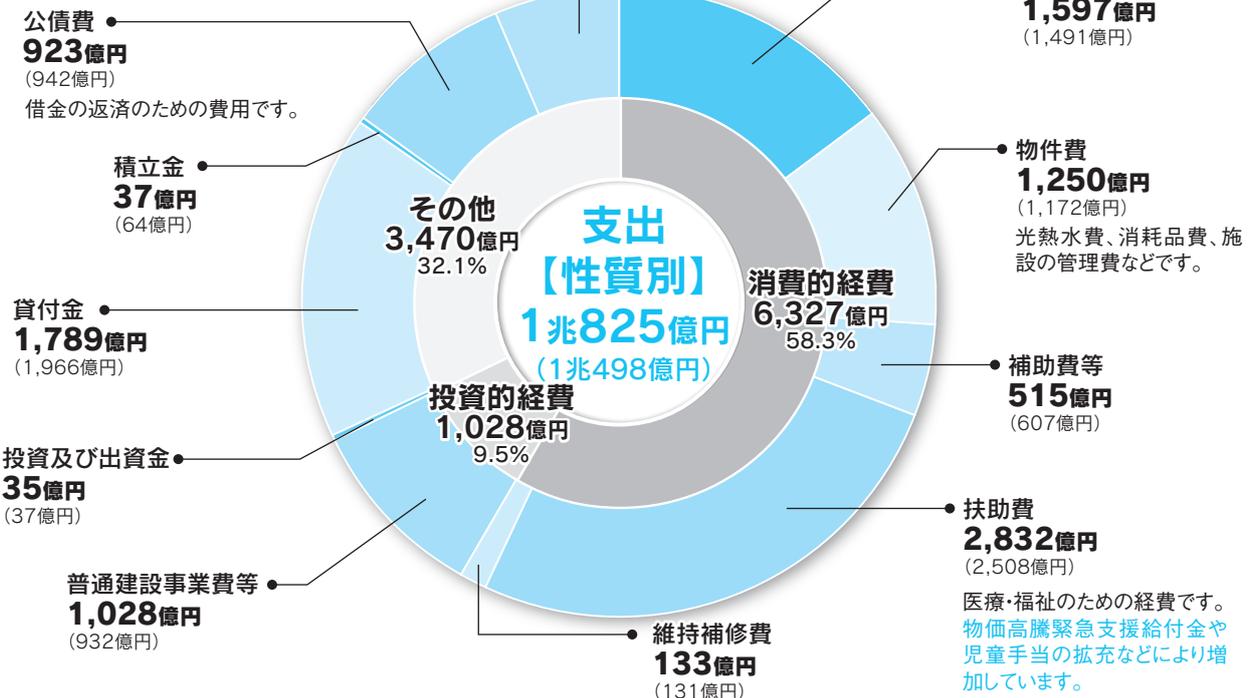
投資的経費

道路や公園、学校など社会資本を整備するための経費

繰出金

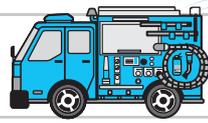
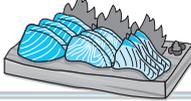
686億円

(648億円)
特別会計・企業会計に支出する経費です。



●市民一人あたりにすると？

一般会計の予算を市民一人あたりに換算すると約68万円となり、市民生活の向上や地域経済の活性化などいろいろな施策に取り組んでいます。

	令和6年度予算		市民一人あたりの予算 ※
	百万円	円	
こどもの育成や学校・教育に 	3,114	195,362	(28.8%)
保健・医療・福祉に 	2,587	162,309	(23.9%)
地域経済の発展に 	1,996	125,249	(18.4%)
道路・住宅・計画的なまちづくりに 	807	50,621	(7.5%)
行政の運営に 	749	46,969	(6.9%)
災害に強いまちに 	458	28,766	(4.2%)
地域活動・文化・スポーツに 	344	21,553	(3.2%)
清潔なまちに 	330	20,700	(3.0%)
公園整備や緑の保んに 	188	11,802	(1.7%)
地下鉄・水道事業の支援に 	149	9,351	(1.4%)
新鮮で安全な食料の提供に 	103	6,485	(1.0%)
合 計	10,825	679,167	(100.0%)

※令和5年12月末現在の人口(159万3,919人)で算出しています。

※()内は、構成比を示しています。

●予算を「家計」に例えると？

一般会計の予算(1兆825億円)を年間の収支が500万円(1ヶ月あたり41万6,000円)の家計に置き換えて説明します。

給与のうち、基本給の多くが市民の皆さんが納めた市税です。
諸手当のうち、地方交付税は、どの市町村も標準的なサービスを受けられるよう地域間格差を解消するため、国から交付されるものです。
また、国・県支出金は、生活保護や道路整備など市の事業の一部を国や県が一定割合を負担するものです。

ふくおか家・1ヵ月の家計簿

《収入》

給与	32万4,000円
(うち基本給 (市税などの自主財源))	17万8,000円
(諸手当 (地方交付税や国・県支出金など))	14万6,000円
銀行からの借入 (市債)	2万3,000円
銀行からの引き出し金など (貸付金元利収入)	6万9,000円
計	41万6,000円

《資産》

家や車、預貯金など	1,525万4,000円
-----------	--------------

《支出》

医療費・保育料など (扶助費)	10万9,000円
ローンの返済 (公債費)	3万6,000円
食費 (人件費)	6万1,000円
光熱費や通信費など (物件費)	4万9,000円
家・車・電化製品の修理・買い換え (維持補修費、普通建設事業費等)	4万5,000円
家族への仕送り (繰出金、補助費)	4万6,000円
銀行への預け金など (貸付金等)	7万円
計	41万6,000円

義務的経費

《負債》

ローン残高	699万8,000円
-------	------------

ローンを3万6,000円返済する一方、新たな借入は2万3,000円に抑えました。

借金残高を減らす努力をしており、令和4年度決算でのローン残高は、699万8,000円です。一方、家や車などの資産は、1,525万4,000円あり、健全な家計運営に努めています。

医療費・保育料など(扶助費)、ローンの返済(公債費)、食費(人件費)、の3つは、「義務的経費」と呼ばれています。

これが多いのは、一般家庭のエンゲル係数(家庭における食費の占める割合)が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。ちなみに、福岡市の歳出総額に占める義務的経費の割合は、49.4%です。

●どのような事業に使うの？

次世代をはぐくみ、誰もが元気に暮らすまち

安心して生み育てられる環境づくり

「福岡市型」こども誰でも通園制度の実施

4億8,511万円

保護者の就労要件等を問わずに保育所等が利用できる「福岡市型」こども誰でも通園制度を実施します。

利用時間	
【国基準】	【福岡市独自】
月10時間	最大月40時間 (毎週1回・1日4時間～8時間)

第2子以降の保育料無償化を拡充

24億1,382万円

令和5年度から実施している第2子以降の保育料無償化について、無償化の対象を幼稚園のプレ通園に通う、当該年度に満3歳を迎える2歳児にも拡充します。

保育士の人材確保を強化

6億1,159万円

正規保育士への奨学金返済支援や家賃助成のほか、新たに民間保育所等に対し、保育士の補助を行う保育補助者の雇用費を助成するなど、様々な施策で保育士の人材確保を強化します。

学校・保育所等の給食費物価高騰分を支援

15億7,784万円

保護者の負担を増やすことなく、給食の質の維持を図るため、給食食材の価格高騰相当額を支援します。



産後のヘルパー派遣を拡充

9,168万円

ヘルパー派遣による従来の家事支援・育児支援に加え、多胎児世帯向けの外出支援(公民館や公園などにヘルパーが同行支援)を追加(20回)します。



産後ケアの利用料を軽減

1億3,993万円

産後ケアの多胎児 2人目以降にかかる利用料を無償化し、多胎児の人数に関わらず一律料金とすることで、利用者負担を軽減します。

宿泊型 : 一律 3,000 円/日
日帰り型 : 一律 2,000 円/日
訪問型 : 一律 500 円/日



サポートを必要とする子どもへ

児童発達支援センターでの一時預かりを開始

7,467万円

障がい児を育てる保護者の就労を支援するため、児童発達支援センターに通っている児童を対象に、市立の児童発達支援センターにおいて、療育終了後の一時預かり(15時～18時まで)を実施します。(令和6年夏頃開始)

不登校児童生徒への支援の充実

1億2,161万円

教育支援センター(校外適応指導教室)を全区に増設するとともに、クラスに入りづらい児童の見守りなどを行う教育支援員を小学校に新たに配置します。また、学びの多様化学校(不登校特例校)の令和7年4月開校に向けた施設整備などを進めます。

何歳でもチャレンジできるまち

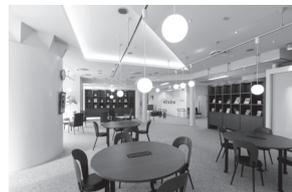
ユマニチュード®のさらなる普及促進 6,118万円

ユマニチュードの市民認知度のさらなる向上を目指し、様々な媒体を活用した広報を展開します。また、日本ユマニチュード学会・福岡総会を共催するなど、福岡市独自の取組みを国内外へ発信します。



認知症フレンドリーシティ拠点の機能強化 9,015万円

認知症フレンドリーセンターに若年性認知症コーディネーターを新規に配置し、若年性認知症の方へのサポートを強化します。

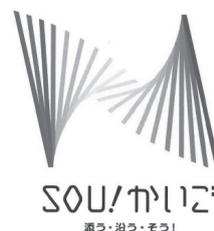


高齢者乗車券の利便性向上 20億2,934万円

社会参加促進のため交付している高齢者乗車券のタクシー助成券について、より使いやすくなるよう、令和6年10月から、1乗車につき最大2枚(1,000円分)まで利用できるようにします。

介護人材確保に向けたDXの推進・経営力の強化 6,054万円

介護人材確保の各種取り組みに加え、ICTツールのモデル導入、経営コンサルタント派遣により、経営力の強化に向けた支援を行います。



子どもたちの学びの充実

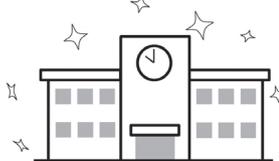
多様な支援スタッフの充実 17億4,835万円

部活動指導員やスクール・サポート・スタッフ等の配置充実により、教員が子どもと向き合う環境づくりを推進します。



学校施設の建替え推進 2億2,667万円

学校施設は、今後、一斉に更新時期を迎えることから、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境を確保するため、老朽化した校舎等の建替えに取り組めます。



誰もが安心して暮らしやすいまち

誰もが自分らしく遊べるインクルーシブな子ども広場整備 9億5,494万円

インクルーシブな子ども広場の整備を各区で進めます。令和6年度は、百道中央公園を供用開始し、西南杜の湖畔公園と桧原運動公園、東平尾公園の工事に着手します。



街頭防犯カメラの設置促進 6,477万円

自治会、町内会等に対して、街頭防犯カメラ設置費用の一部を助成します。



魅力にあふれ、国内外から選ばれ成長するまち

多様な人材や企業が集まるまち

ふるさと納税を活用したソーシャル
スタートアップ成長支援 **3,143万円**

ふるさと納税制度を活用し、社会課題解決を目指すスタートアップの経営基盤強化にかかる取組みを支援します。



都心部のエリアプロモーションと
企業誘致の推進 **8,681万円**

天神ビッグバンや博多コネクティッドなどにより進化する都心部のエリアプロモーションを実施するとともに、産学官連携で企業誘致を強力に推進し、国内外の成長企業や高付加価値なビジネスの集積を目指します。



観光・MICEで賑わい、潤うまち

博多旧市街の整備やブランディング実施
2億9,091万円

歴史・文化に配慮した趣ある道路整備を行うとともに、飲食店等と連携した、博多旧市街フェスティバルの開催や、歴史・伝統・文化の体験や観光情報発信機能等を備えた観光拠点の検討に取り組みます。



福岡城・鴻臚館における観光振興
2億1,563万円

福岡城への観光集客向上を図るため、幻の天守閣ライトアップ等を実施するとともに、鴻臚館東門等の復元に向けた設計等を行います。



広域連携による観光誘客の推進
8,857万円

欧米豪からの誘客や付加価値の高い旅行を推進するため、西日本・九州の自治体等と連携した、西のゴールデンルート取組み等を実施します。



海辺を活かした観光振興
9億4,177万円

志賀島・北崎地区において、観光周遊促進に向け、豊かな自然環境と調和した道づくりや、レンタサイクル導入支援、市営渡船と連携した集客促進、立ち寄りスポットの整備等に取り組みます。



憩いと潤いを感じられるまち

一人一花運動の展開
5,280万円

「花で共創のまちづくり」の定着に向けて、植物園の改修とあわせて花の祭典などを展開します。



新たな運動公園の整備
2,258万円

早良区南部地域においてソフトボール等に利用できる多目的グラウンドを有する運動公園の整備に向けて取り組みます。

新たな価値を生み出すまち

福岡アジア美術館の魅力向上

7,920万円

コレクションの展示機能の強化に向けて、警固公園の地下を有力候補として、施設拡充の調査・検討を行います。また、コレクション展示をインターネット上で体験できる仕組みを構築します。



子どもたちがアートを体験する 機会の創出

3,370万円

小学校への貸切バス代等の助成により美術館等での対話型アート鑑賞体験を推進するほか、小学校でのワークショップを実施します。



市民会館の再整備

21億3,185万円

令和7年3月の開館に向けて、施設整備、開業準備等に取り組みます。



九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり

33億6,811万円

土地区画整理事業や周辺道路等の基盤整備、優先交渉権者や関係者との協議・調整等を実施します。また、跡地周辺の道路において、無電柱化等の整備を推進します。



カーボンニュートラルの推進

水素の普及に向けた取組みの推進

4億9,542万円

FC車両の運用や、九州大学箱崎キャンパス跡地における水素供給パイプラインの整備、下水バイオガス由来の水素ステーションの運営等、水素の普及に向けた取組みを推進します。



食品廃棄物の削減に向けた モデル事業の実施

381万円

モデル小学校において、給食の食べ残しを減らす取組みや調理くず等の堆肥化、メタン化施設での資源化に取り組み、効果や拡大に向けた課題の検証を実施します。



交通機能の強化

福岡市地下鉄の車両更新・増備

41億6,444万円

運用開始から約40年経過した空港・箱崎線の1000N系車両を更新します。(令和6～9年度で18編成)また、七隈線の混雑緩和のため、3000A系車両を増備します。(令和8・9年度で4編成)



福岡空港滑走路の増設

9億3,585万円

福岡空港の機能強化を図るため、国において、新たな滑走路の増設が進められており、令和6年度末の供用開始に向けて、この整備を県とともに推進します。



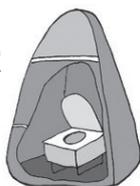
主要事業

災害に強いまちづくり

災害に対する備えの強化

1億5,241万円

能登半島地震を踏まえ、簡易トイレ等の備蓄品の拡充、応急給水体制強化を目的とした給水車の増強(4台→6台)、迅速な被災者支援を行うための防災アプリ「ツナガル+(プラス)」の機能強化と利用促進キャンペーンを実施します。



アイランドシティに消防出張所を新設

城南消防署に救急隊を増隊 3億6,156万円

消防・救急需要に的確に対応するため、アイランドシティに消防出張所を新設します。

また、城南消防署に救急隊を1隊増隊します。



コミュニティ施設の充実

南区における地域交流センターの検討

561万円

南区における地域交流センターの整備に向け、基本構想の検討を進めます。

中央市民センターのリニューアル

1億677万円

令和9年度のリニューアルオープンを目指し、施設の長寿命化、防災機能の強化やバリアフリー化などの改修に係る設計を実施します。

農林水産業の振興

次代へつなぐ地産地消の推進

1億1,063万円

子どもたちが興味関心を持ち、記憶に残る市内産農水産物を学校給食に提供することにより、地元産食材に対する理解や愛着を深め、将来にわたって持続可能な地産地消を推進します。



市内産農産物消費拡大の推進

896万円

市内産農産物の消費拡大に向け、シェフやバイヤー向け生産地ビジネスツアー・商談会を実施します。



地場企業・商店街・働く人を応援するまち

商店街プレミアム付商品券の発行を支援

1億425万円

地域経済の活性化に向けた消費喚起と物価高騰対策として、商店街プレミアム付商品券の発行を支援します。

福岡発カーボンゼロ商品創出の支援

900万円

カーボンゼロ商品創出に向けたアイデアソンの開催や商品・サービス開発のための専門家派遣等を実施します。



各区のまちづくり

東 区

ご遺族サポート窓口のワンストップ化 外国人専用総合相談窓口の設置 20万円

ご遺族サポート窓口を新たにワンストップ化し、関係課職員が窓口に出向き対応することにより、ご遺族の負担を軽減します。また、外国人専用総合相談窓口を設置し、健康、子育てなど福祉的な分野を含め、多岐にわたる問い合わせや相談に総合的に対応します。



博多区

めくもりの窓口(福祉の総合相談窓口)の 設置 814万円

高齢、障がい、生活困窮など、複数の福祉的な課題を抱える相談者に寄り添って話を傾聴し、課題を明らかにして、支援・解決につなげていく「福祉の総合相談窓口」を設置し、誰一人取り残さない福祉サービスの推進に取り組みます。



中央区

中央区の認知症になっても住みやすい まちづくり事業 274万円

認知症高齢者と接する機会が多いマンション管理者をはじめ銀行、コンビニ等の事業者との共働による見守りのネットワークづくりや連携のためのツール(認知症の特性に配慮した対応マニュアル)等を作成します。また、元気なうちから高齢期に向けて備える講座を実施します。



南 区

定型的な手続きを行うめくもり福祉窓口 (保健福祉センター出張窓口)の新設 243万円

南区役所本館1階に、引越しや死亡時に必要な福祉・介護保険課の定型的な手続きに対応するめくもり福祉窓口を新設します。保健福祉センターへの移動負担を無くし、手続き時間の短縮により市民の利便性向上を図ります。



城南区

油山・樋井川の魅力発信 86万円

油山や樋井川の魅力を体感できるイベントの開催や、四季折々の情報を区ホームページやSNS等で発信することにより、自然環境保全意識の醸成を図り、自然環境を大切にするまちづくりを進めます。



早良区

ご遺族サポート窓口のワンストップ化 18万円

ご遺族の多岐にわたる事務手続きについて、専用の窓口で担当職員が入れ替わることによりワンストップで手続きを行うとともに、事前に把握した情報を手続き書類に反映し、記入箇所を減らすこと等により、ご遺族の負担軽減を図ります。



西 区

地域自主防災力及び区防災体制の強化 169万円

避難行動要支援者の個別避難計画について、自治会単位での作成を支援します。また、地域で実施する防災訓練の支援や自主防災組織への研修会を通して、防災の啓発を図ります。



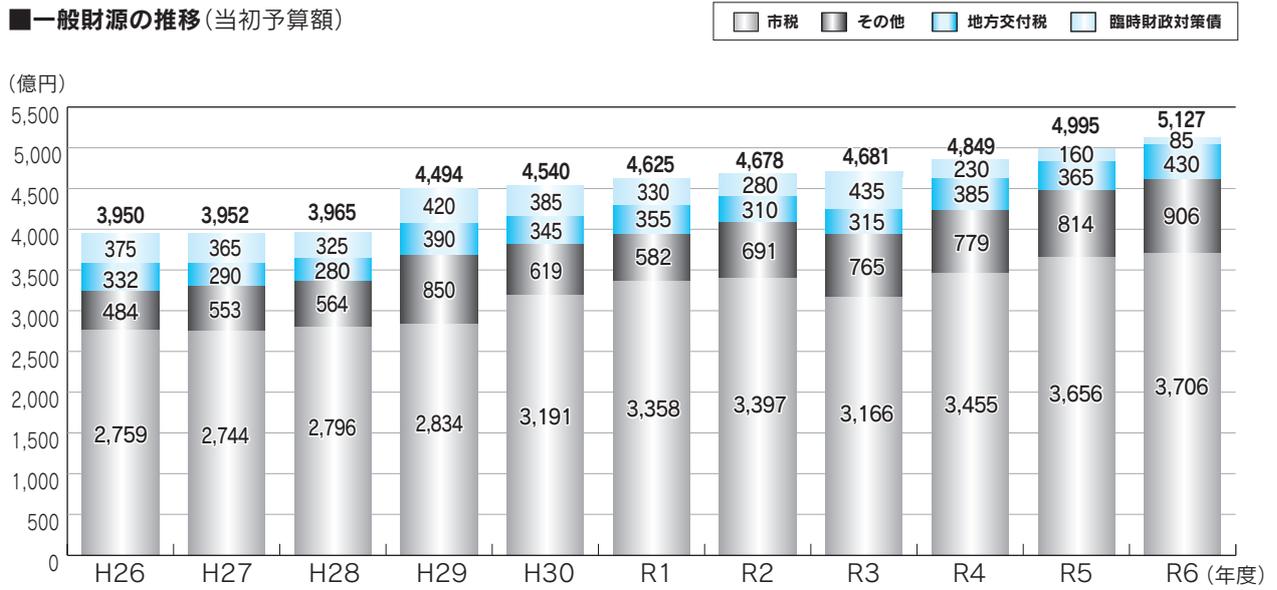
2 福岡市の財政状況はどんなの？

●収入や支出はどうなってるの？

一般財源は増加

一般財源のうち、市税収入は、納税義務者数の増加や、企業収益の改善、土地評価額の上昇等に伴い、過去最大となりました。一方で、市税収入の増加等に伴い、実質的な地方交付税は減少しています。

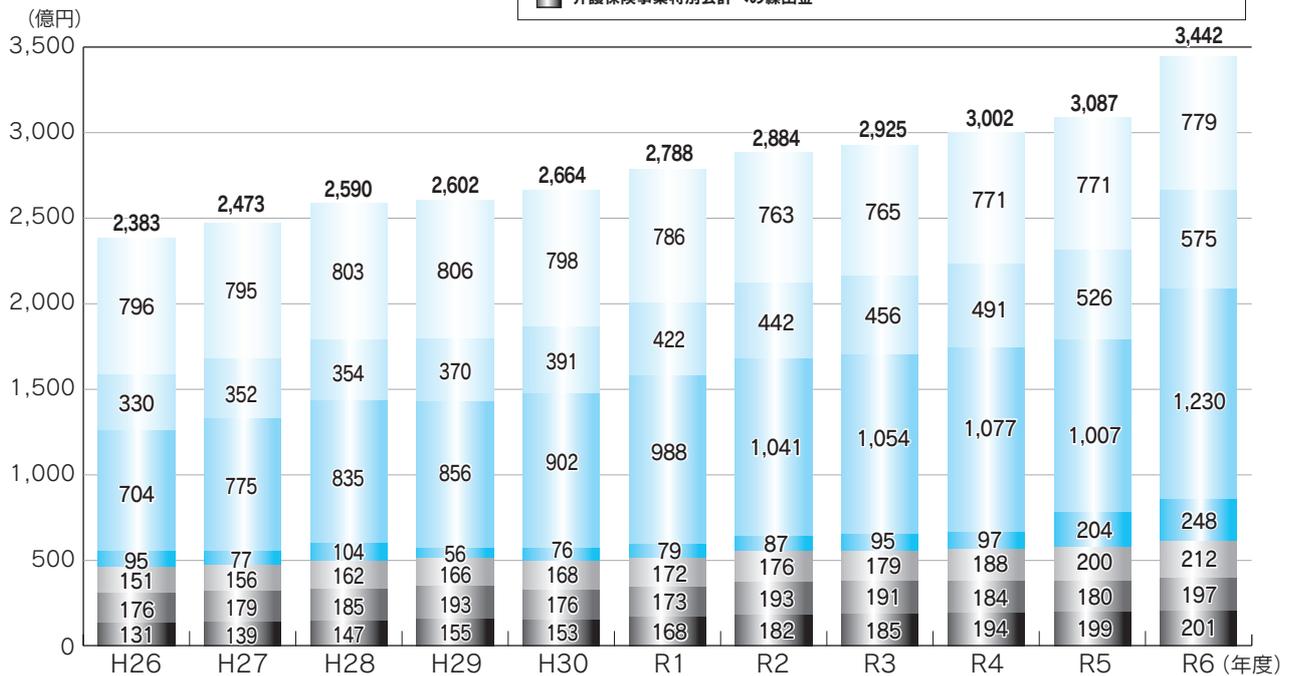
■一般財源の推移(当初予算額)



伸び続ける社会保障関係費

医療や介護保険、その他福祉サービス関係の経費が増加しています。

■社会保障関係費の推移(当初予算額)

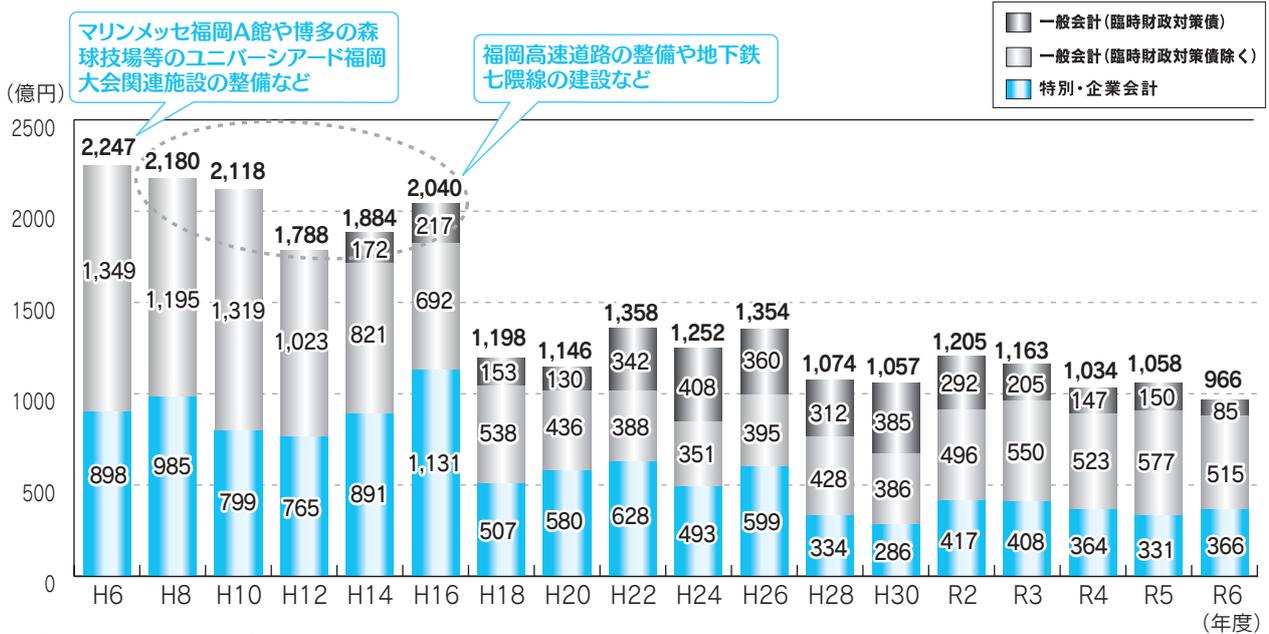


●新たにいくら借金の？

市債発行額は、966 億円(特別・企業会計含む)

令和6年度の市債発行額は966億円です。平成初期から中期にかけては、マリンメッセ福岡A館や博多の森球技場等の施設整備、福岡高速道路や地下鉄七隈線等の都市基盤整備などで市債発行額が2,000億円を超えることもありましたが、近年は1,000億円程度で推移しています。

■市債発行額の推移(全会計 ~R4:決算額 R5:最終予算額 R6:当初予算額)



●借金はいくらあるの？

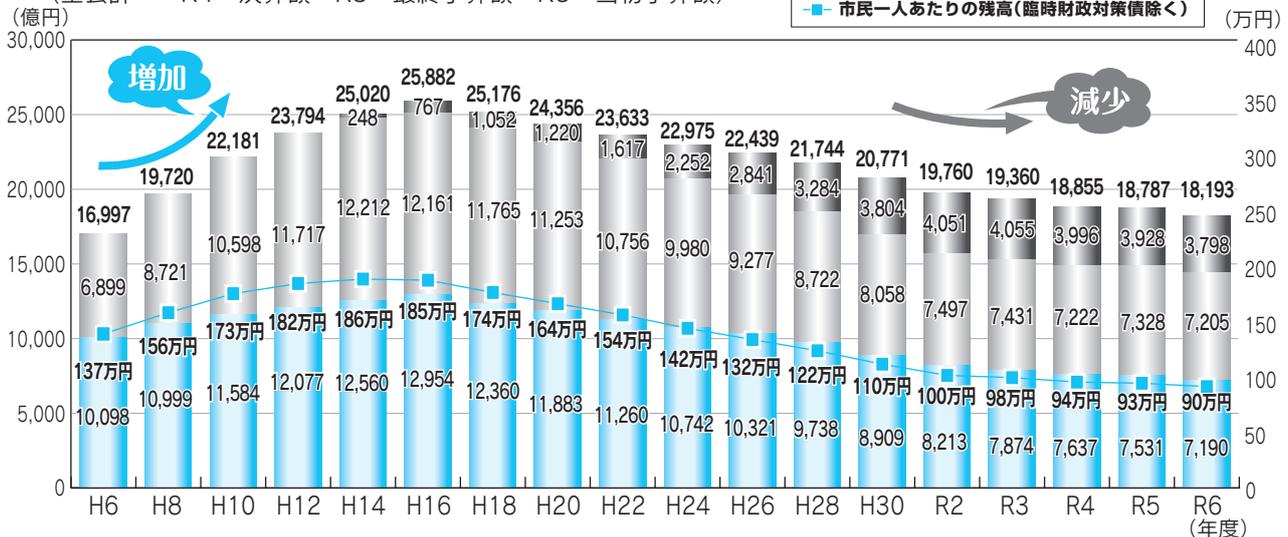
市の借金は、およそ1兆8,193億円

市債残高は、最大時の平成16年度末には2兆5,000億円以上になりました。その後、毎年、新たに発行する市債の額を抑制することなどにより、市債残高は着実に減ってきており、令和6年度末には1兆8,193億円程度になる見込みです。

また、国が後年度に財源を措置する臨時財政対策債を除き、市民一人あたりに換算すると、ピーク時の半分を下回る見込みです。

■市債残高(満期一括積立金を除く)の推移

(全会計 ~R4:決算額 R5:最終予算額 R6:当初予算額)



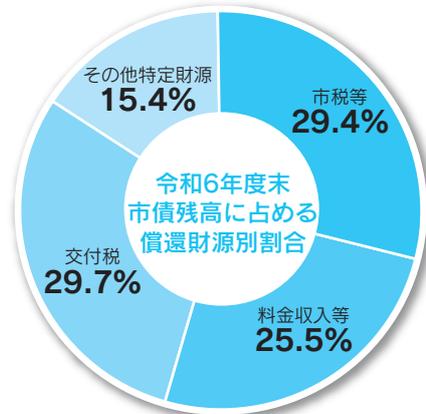
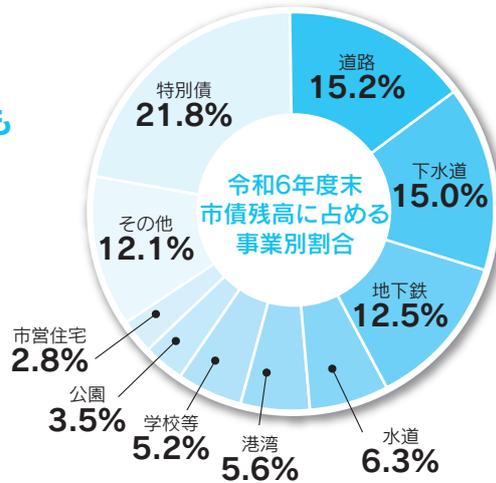
●なぜ借金をするのか？

主に道路や下水道など、将来世代の市民も使う公共施設をつくるため

借金(市債)は、主に何十年の長期にわたって使用する公共施設をつくるための財源となっています。その理由は、道路や下水道などの長期にわたって使用する公共施設については、施設をつくる年の市民だけで全ての建設費用を負担するのではなく、施設を使用して便益を受ける将来世代の市民にも負担してもらうことが公平だと考えられるためです。

福岡市では、かつて下水道や道路、地下鉄などの整備を積極的に行ったため、市債残高は増加した反面、市民生活に寄与する社会資本整備が飛躍的に向上しました。

借金の返済には、市税や地方交付税等の一般財源のほか、施設の使用料等の特定財源が充当されています。



■市の社会資本の整備水準比較

	1993年度	2022年度
下水道普及率(人口普及率)	94.7%	99.7%
都市計画道路の整備率	43.7%	85.0%
地下鉄の営業キロ数	17.8km	31.4km
水道施設能力(供給できる水量)	704,800m ³ /日	780,900m ³ /日

●借金を減らしているけど、施設の更新(投資)はしないの？

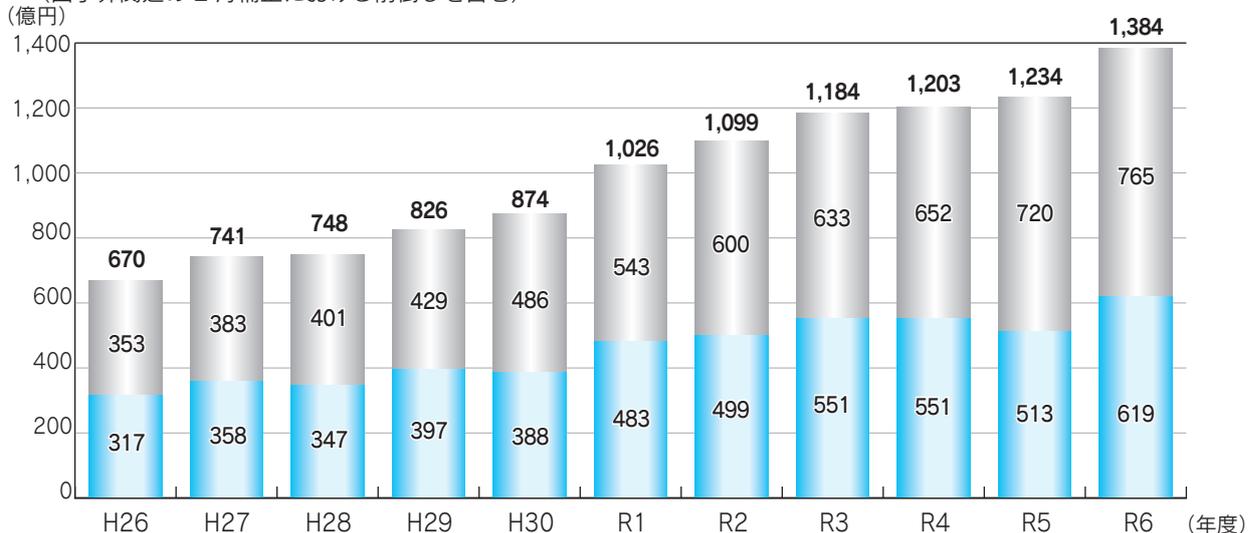
公共施設などの長寿命化や機能向上、建替えなどに1,384億円(特別・企業会計含む)

令和6年度のASETマネジメント*事業費は1,384億円です。学校の大規模修繕や市営住宅の建替えなど、市民が市有施設を安全・安心に利用できるように、市債発行をコントロールしつつ施設の更新などの公共工事を行っています。

*ASETマネジメント: 公共施設の管理水準を一定に維持するとともに、計画的な施設の整備、維持管理、大規模修繕などを実施することにより、施設を延命化し、コスト縮減を実現するための資産管理手法

■ASETマネジメント事業費当初予算の推移

(国予算関連の2月補正における前倒しを含む)

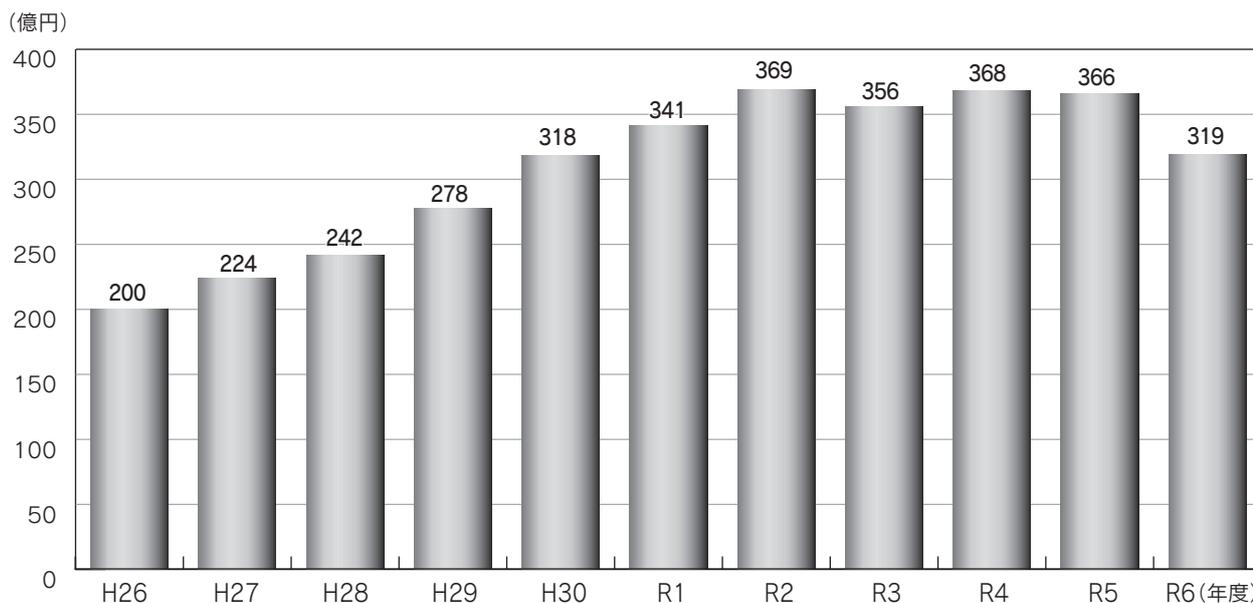


●貯金はいくらあるの？

財政調整基金の状況

財政調整基金は、不測の事態に備えるための基金で、財源に余裕がある場合や決算剰余金が発生した場合に積み立てを行っています。経済情勢の変動によって財源が不足する場合や、災害発生など緊急に支出が必要な場合等に取り崩して活用しています。

■財政調整基金残高の推移（～R4：決算額 R5：決算見込額 R6：当初予算額）



●福岡市の財政状況のまとめ

- 令和6年度は、市税収入が増加し、一般財源は増加しています。
- 福祉や医療などの固定的な費用は、高止まりしています。
- 市債残高(借金)は確実に減少しつづけています。市民一人あたりに換算すると、令和6年度末にはピーク時の半分を下回る見込みです。
- 公共施設などの長寿命化や機能向上、建替えなどの投資にも力をいれています。
- 将来世代に過度な負担を残さないためにも、投資と借金のバランスをとりながら、健全な財政運営に取り組んでいきます。



3 福岡市の財政をどうやりくりしていくの？

※財政運営プラン(令和3年6月策定)より抜粋

●将来にわたり持続可能な財政運営に向けた取組みの方向性は？

<基本的な方針>

- 本市財政の見通しを踏まえ、市民生活に必要な行政サービスを安定的に提供しつつ、重要施策の推進や新たな課題に対応するために必要な財源を確保できるよう、政策推進プランに基づき投資の選択と集中を図るとともに、歳入の積極的な確保や行政運営の効率化、既存事業の見直しなど徹底した事業の選択と集中や不断の改善に取り組みます。
- また、中長期的に、「生活の質の向上」と「都市の成長」のために必要な施策事業の推進により税源の涵養を図りつつ、超高齢社会に対応する持続可能な仕組みづくりやアセットマネジメントの推進、市債残高の縮減に向けた市債発行の抑制などにより、将来にわたり持続可能な財政運営に取り組みます。

<主な取組み>

取組1 歳入の積極的な確保

- ①市税及び税外債権の確保
- ②市有財産の有効活用等による財源の確保

取組2 行政運営の効率化

- ①民間活力・ICTの活用や組織の最適化
- ②企業会計・特別会計における見直し
- ③外郭団体等の見直し

取組3 役割分担、関与の見直し

- ①ガイドラインに沿った補助金の適切な運用
- ②国・県との財政負担の適正化
- ③規制緩和による民間活力の誘導

取組4 行政サービスのあり方の転換

- ①持続可能な個人給付施策等の構築
- ②使用料等における受益者負担の適正化

取組5 公共施設等の見直し

- ①施設の維持管理コストの縮減
- ②施設の老朽化への適切な対応
- ③施設の必要性の見直しや配置の最適化

取組6 市債発行の抑制、市債残高の縮減

- ①長期的な市債残高の縮減に向けた発行抑制
- ②将来負担比率の適正な管理

●将来にわたり持続可能な財政運営に向けた令和6年度における取組みは？

財源の確保

令和6年度の予算編成においては、「歳入の積極的確保」や「使用料等における受益者負担の適正化」などの取組みを進めることで、約45億円の財源を確保しました。

財源確保総額

45億円

歳入の積極的な確保

41億円

①市税及び税外債権の確保

17億円

市税収入率の向上[R5 98.61%→R6 98.78%]

6億円

宿泊税収入の増

10億円

など

②その他歳入の確保

24億円

ふるさと納税寄付の確保

10億円

未利用地等の売却・貸付

13億円

など

使用料等における受益者負担の適正化など

3億円

道路占用料の改定

2億円

公園占用料の改定

0.5億円

電気自動車用充電設備の利用料

0.1億円

など

施設の維持管理コストの縮減など

1億円

道路直営灯・公園照明灯のLED化による電気料削減

0.1億円

など

福岡市のSDGsの取組みについて

SDGsとは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略で、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために、2015年の国連サミットで採択された、2030年を期限とする17の国際目標です。

福岡市では、多くの市民の皆様とともに策定した「福岡市総合計画」に基づき、経済的な成長と、安全・安心で質の高い暮らしのバランスが取れた、コンパクトで持続可能な都市づくりを進めることにより、SDGsの達成に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



財政・予算に関する資料

●福岡市ホームページ <https://www.city.fukuoka.lg.jp>

- ▶ 財政状況については 市政全般→予算・決算・市債・寄付等→「決算」あるいは「財政の概要」
- ▶ 予算については 市政全般→予算・決算・市債・寄付等→「予算」

財政・予算についてのお問い合わせ

●福岡市財政局財政部財政調整課

電話：092-711-4166

ファックス：092-733-5586

Eメール：zaisei.FB@city.fukuoka.lg.jp

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1